

1 日時：令和元年 10月1日（火） 15:30～16:50

2 場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター カンファレンスルーム 8E

3 出席者

構成員 金沢大学 柳瀬特任助教、慶應義塾大学 川嶋名誉教授、重野教授、筑波大学 伊藤教授、東北大学 鈴木教授、同志社大学 三好教授・山本教授、名古屋大学 倉地特任准教授（Skype）、日本大学 影山教授・栗谷川准教授、明治大学 中山教授、法政大学 糸久准教授（Skype）・今井教授、筑波大学 川本教授、東京大学 佐倉教授、大阪大学 山崎准教授、
国立研究開発法人産業技術総合研究所 加藤首席研究員・北崎センター長、自動車技術総合機構交通安全環境研究所 河合部長、理化学研究所 中川グループディレクター・小出研究員、
東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター／東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 須田教授・大口教授・中野教授・鹿野島准教授・平沢助教・岩崎特任研究員・霜野特任研究員

オブザーバー 内閣府 畑崎氏、古賀氏、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 渡辺氏、古賀氏
事務局 社会システム株式会社（東野氏、大山氏）

支援

4 議事概要

（1）須田機構長 挨拶

（2）開催趣旨

（3）前回議事概要の確認

（4）SIP 第2期「自動運転に係る海外研究機関との共同研究の推進に向けた連携体制の構築」業務の概要
・資料3について説明。

（5）自動運転関連研究のデータベースの拡充

・資料4について説明。

（主な議事）

- ・データベースについて、アクセスする際のスクリーニングの許可や様々なスキームが考えられる。最新の動向が把握でき、産業界や政府に一定の価値が生めるといったことも考えられる。是非、皆さんからも提案いただきたい。
- ・情報提供側からすると、どういう切り口でその情報が集まっていて、連携を考えた際、技術の成熟度等によって、どの先生と組めば良いといった情報が分かるとありがたい。
- ・外に出すというときは、こちらが一定レベルを保証して出すのか等、単なるプラットフォームで良いのか議論しなければならない。攻撃に対する脆弱性ということもあるが、こちらの名前を出すときには、まず責任の範囲を明確にしなければならない。
- ・皆さんのお知恵をいただきながら、社会的な貢献や価値等、皆さんにとってもメリットがあるようにしたい。原案は練ったうえで、お諮りしていきたい。
- ・自動運転の学会を作っていくようなイメージか。自動車技術会はいろんな分野があってトータルとして自動車を学術的に捉えている企業もある。同じように自動運転という切り口で技術もあれば法整備もあれば人間性もあれば社会性もあ

れば、それぞれの質があり、それぞれの分野には代表的な先生（座長）がいて、ペーパーがあり、ペーパーがあるということはそこに登録する方はオープンにしても良いデータを提供している。大学が旗を振られるので、アカデミックなまとめ方をしていけるほうが分かりやすいのではないか。データベースでいくと、どこまで責任を持って出せばよいのか、使われたらどうするのか、学会のペーパーだと思えば、我々は馴染みがあり、ペーパーを見れば、第一人者として載っている方のレベルが読む者が読めば分かる。そういうイメージで整理するのはどうか。学会を立ち上げるということではない。将来的にはそういう切り口で整理されるほうが、見ていて分かりやすい。自動運転学会は聞いたことがないので、あれば嬉しい。

- ・将来的なスコープとしては、まさにそういった方向があるのではないかと考えている。
- ・データベースに登録いただく先生方の研究の一つのディレクトリーのようなものをイメージしている。産業界から見て、学术界の先生方がどのような研究をされているのか分からない。まずは、産業界の方と共有ができるデータベースが望ましいのではないか。その中で、新たな産学連携というのが生まれていくことに期待したいし、日・独といった学术界の先生方うまくドイツ側等、例えば標準だという目線では仲間になっていただき、アクティビティに繋がっていただければと勝手ながら考えている。
- ・データを使いたい人が産業界の人であれば、産業界の方がそもそも何に困っているかという情報が必要。本会議の構成員が文理融合も含めて、何らかの触発をしまい、共同研究を始めるのであれば、データベースではないと思う。
- ・やり方はこれからだと思う。まずは組織、研究者がどの学会、それぞれの自分達の活動の中でやっているが、法律の方の話の聞いてみたい等、そういう場面にしばしば遭遇している中で、少なくともいろいろな異分野がどうしても関連してしまう分野の中で、まずは一堂に会する場を作ろうということから始まった。

（6）Level4 モビリティサービス実現に向けた検討

- ・資料 5 について説明。
（主な議事）
- ・ここまでのまちづくり、どこか過疎的なところを狙うのであれば、自治を一生懸命やってもらうのがよいのではないかと考える。
- ・いろんなところに働きかけて、支援いただくというのも考えていかなければならない。
- ・Lv4 を活用するのに一般解ではコストが足りない。何箇所かの地域で提供するサービスを変え、簡易なところは一般の方にも協力いただく等、そういったことをスタートに持ってくると良いのではないかと考える。
- ・総合的な角度から交通を位置付けていくこともやったほうが、ディフェンシブが強いといえる。
- ・実用化に向けた地域の候補としては、すでに実証実験を行った地域がやりやすいと考えている。

（7）国際連携について

- ・資料 6 について説明。

（8）SIP-adus ワークショップについて

- ・資料 7 について説明。

（9）福島浜通り次世代モビリティセミナーについて

- ・資料 8 について説明。

（10）今後のスケジュール

- ・資料 9 参照

以上